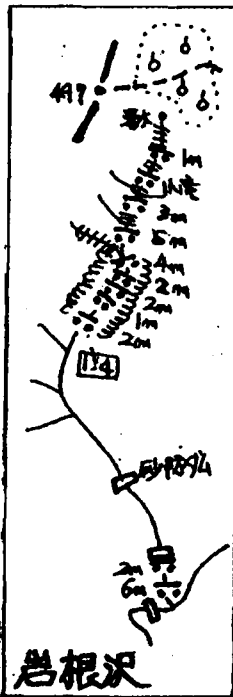


樹園まで続いていた。

(記・ 功)

【タイム】 赤沢右俣出合(9:40)→終了(10:35)



### 岩根沢

1983年7月31日

Li カ

果樹園から岩根沢に入る。源頭は湧水で、沢幅はせまいがナメ床となっている。

下降を開始してから約5分で支沢と出会う。ここから小さな滝が連続し、規模は小さいがゴルジュをなしている。あとはさして変化もない。砂防ダムを2つ越えると6m程の滝があり、右岸の踏跡をたどって降りると布入川の流れに出会う。あとは河原歩きをし

て布入へ。

(記・ 功)

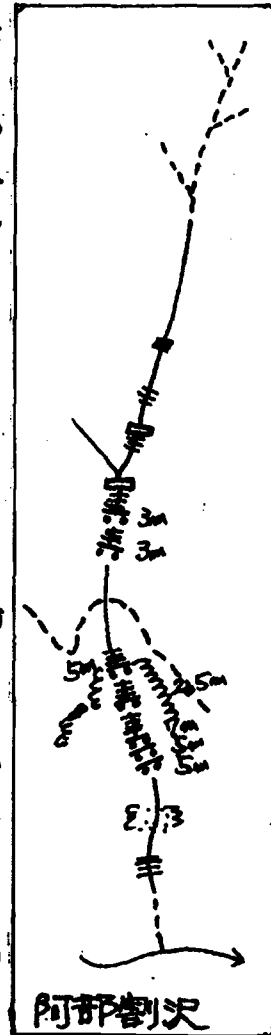
【タイム】 下降開始(11:05)→終了(12:20)→布入(12:40)

### 阿部割沢

1983年11月3日

茂庭沢右岸の林道からヤブコギで茂庭沢に下る。丁度砂防ダムの上に出た。10分程で阿部割沢出合。水は流れてなく、見逃してしまいそうな出合である。

少し遡るとナメが出てきて水もチョロチョロなれど流れるようになった。やがて兩岸がくずれている所を通りぬけるとやがてF1 5m、F2 5m、F3 7mと続く3つの滝が出てきた。このうちF1・F2は軽くパス。F3は左のクラックぞいに登るが、滑りやすくてかなり緊張した。上に上がるとナメと小滝があってF4 5mとなり、左を小さく滑く。このあたり兩岸の上の方は岩場となっている。



ナメが終わると林道に出た。阿部割沢左岸の開拓地からのびてきている林道である。この先ナメがあり、F5、F6と滝を2つ越えると二俣となった。ここに取水用の堰堤があった。右に入る。すぐまた取水用の堰堤がある。この先所々にナメが出てくるが、次第に落葉に埋もれた沢となり、水も濁れてくる。水がなくなるまでつめてから10分程ヤブをこぐと712m三角点のあるピークへと出た。(1)

[タイム] 阿部割沢出合(12:30)→林道(13:10)→沢終了(14:05)

## 桧山沢

1983年7月9日

L1

この1週間雨の降らない日はなく、摺上川本流は相当に増水していた。桧山沢に取り付くにはどうしても渡渉しなければならない。かなり早い流れなので、流木を支柱にしながら川の中に入る。深さは最大股下であった。私にとり、この程度の渡渉はさほど苦になるものでもなかったが、沢登りは今日が初めてという佐藤さんは相当に面喰らったようである。

すぐに遡行開始。樹林帯を流れる薄暗い沢で、小滝とナメが続く。小滝といっても2m程度のものなので登るにほとんど苦労はいらない。30分程歩くと、左岸に水を引くホースが出てきた。茂庭地区の農地の多くは、農業用水をかなり離れた沢から引いてきている。ここのもそうしたものの1つだろう。更に10分程歩いた所に小さな取水口があった。

沢はなおも小滝とナメが続く。4mの滝はシャワーで突破したが、ホールドが少なく苦しかった。このすぐ先、右岸に大きな岩がある所を越えると沢は平凡となった。

一帯はいつしか杉の美林に変わっている。支沢の中流域に農地(その大部分は放棄されている)や、植林地が存在していることも茂庭地域の特徴の1つである。

